

IV-233

エコミュージアムおよび道の駅の地域振興機能に関する比較研究

岩手大学 正 員 安藤 昭
 岩手大学大学院 学生員 大泉 剛
 岩手大学 正 員 赤谷隆一
 (株)オオバ 正 員 ○吉田 基
 (株)昭和土木設計 正 員 佐々木克彦

1. はじめに

先頃閣議決定された「21世紀の国土のグランドデザイン」において、「参加と連携」が取り組みとして掲げられ、より多様な主体の参加による国土づくり、地域づくりの推進が求められている。地域振興施策においても、地域住民の参加とともに、既存の行政単位にとらわれない広域的な連携が求められている。

そこで本研究は、近年、地域振興策として注目を集める「エコミュージアム」および「道の駅」に対して実施した調査の結果から、両事業の現況および地域振興に及ぼす効果・影響について比較考察を行った。

2. エコミュージアムおよび道の駅の概要

エコミュージアムは、自然・文化・産業等に関する地域遺産を、現地において保存・展示する地域振興を目的とした体験型野外博物館である。資料を一カ所に収集し、国民の教育を目的とする伝統型の博物館とは理念、手法ともに異なっている。構想、計画、および管理運営の各段階において、行政と地域住民のパートナーシップが求められており、住民参加型の地域遺産保存システムとも言える。また、ひとつの文化圏全体がエコミュージアムの対象領域になることから、隣接する複数の自治体による広域連携の事例も見られる。

道の駅は、地域の特色を生かした各種の地域振興施設と、道路休憩施設が一体化した複合型施設である。地域振興の核として期待されており、規模の小さい自治体を中心に年々増加している。

両事業は、既存の枠組みを越えた地域振興策である点が共通しているが、道の駅には国の登録・案内制度が整備されているのに対し、エコミュージアムにはそのような制度は整備されておらず、法的な位置づけもなされていない。

3. 調査の概要

調査は上記のような背景を踏まえ、地域連携の現況、および地域に与える影響・効果に関する調査項目を用意し、各自治体の事業担当者に対して調査を実施した。

エコミュージアムに関しては、エコミュージアムおよびそれに近い理念の下に推進されている全国の68事

業を対象とした。道の駅に関しては、平成9年度現在、東北地方において登録されている58施設を対象とした。調査実施時期は、エコミュージアムに関する調査が平成11月7日から12月27日、道の駅に関する調査が平成9年12月8日から平成10年1月8日である。調査方法は郵便調査法、配付数、有効回収数、有効回収率は表1に示す通りである。

表1 調査票配付・回収状況

	エコミュージアム	道の駅
調査票配付数	68票	58票
有効回収数	40票	44票
有効回収率	58.8%	75.9%

4. 結果および考察

(1) エコミュージアムおよび道の駅の現況について

① 住民参加について

エコミュージアムにおいては、管理運営を地域住民の「一部の有志に依存」している施設が約4割(図1)、道の駅においては、管理運営協議組織そのものがない施設が全体の7割にも達し(図2)、地域住民の意志が十分に反映できていない現況が示された。

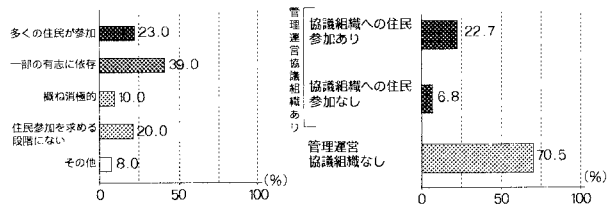


図1 エコミュージアムの住民参加状況

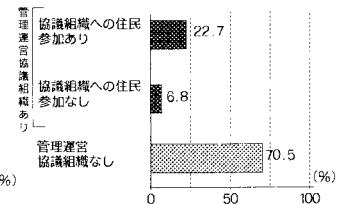


図2 道の駅の住民参加状況

② 広域的な連携について

エコミュージアムにおいては、対象領域がひとつの市町村に限定されている場合が全体の7割に達しており(図3)、複数の自治体に跨る事例は全体の1/4にとどまっている。道の

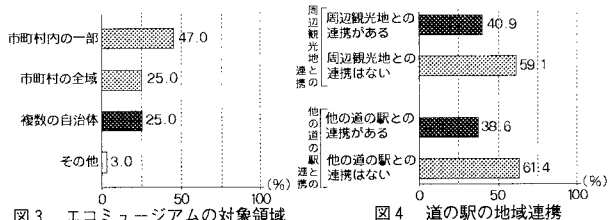


図3 エコミュージアムの対象領域

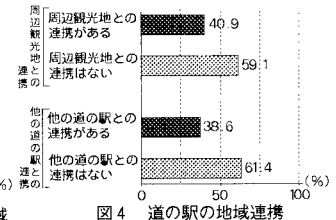


図4 道の駅の地域連携

Keywords: エコミュージアム, 道の駅, 地域振興, DEMATEL法

〒020-8551 岩手県盛岡市上田4-3-5 tel. 019(621)6453 fax. 019(621)6450

駅においても、周辺観光地、および他の道の駅との連携は約4割にとどまっており（図4）、向事業とも行政単位を越えた広域的な連携については、未成熟であることが示された。

（2）地域に及ぼす効果・影響について

「地域振興に関連があると思われるもの」という観点から選択した地域事象25項目（表2）について、それぞれの項目が他のどの項目にどの程度、直接の効果・影響を与えるかを、それぞれの事業担当者に0～5の6段階で評価してもらい、DEMATEL法により解析を行った。

表2 地域事象25項目

1 エコミュージアムの普及	13 財政赤字の増大
2 道の駅の普及	14 地域の高齢化
3 伝統・郷土文化の保全	15 福祉・医療費等社会保障の増大
4 自然環境の保全	16 公共事業の増大
5 環境教育の促進	17 地方自治権の拡大
6 郷土愛の育成	18 住民参加の促進
7 交流人口の増加	19 後継者不足の緩和
8 雇用の創出	20 遺産への関心の高まり
9 地域所得の向上	21 グリーンツーリズムの需要の増加
10 地域知名度の向上	22 情報基盤整備の促進
11 特産物の消費拡大	23 新規産業の創出
12 地場産業の活性化	24 公共事業統廃合の促進
12 人材の確保及び育成	25 持続可能な地域成長の維持

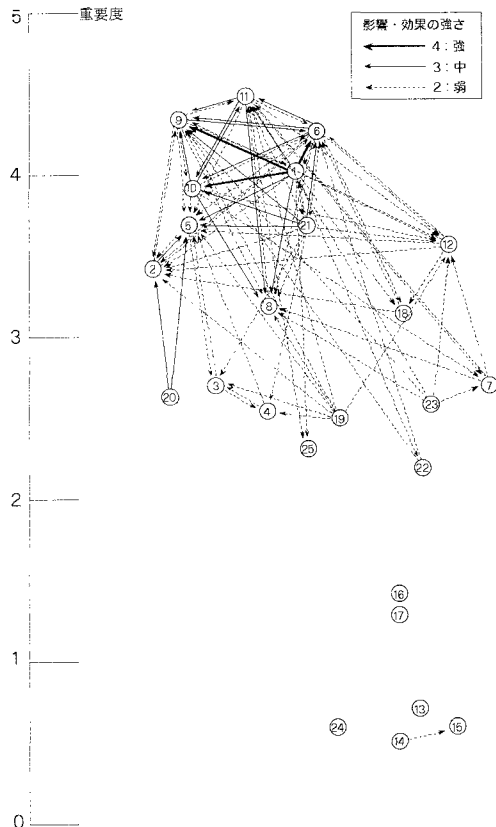


図5 道の駅が地域に与える効果・影響

結果を図5および図6に示す。なお、効果・影響が微弱なものについては、矢印を省略した。

「①道の駅の普及」は、「⑤郷土愛の育成」「⑥交流人口の増加」「⑨地域知名度の向上」「⑩特産物の消費拡大」「⑪地場産業の活性化」に大きな効果・影響をもたらし、特に「⑥交流人口の増加」「⑨地域知名度の向上」「⑩特産物の消費拡大」に大きな直接的影響を与えることが示された。

「①エコミュージアムの普及」は、「②伝統・郷土文化の保全」「③自然環境の保全」「⑤郷土愛の育成」「⑥交流人口の増加」「⑨地域の知名度の向上」に大きな効果・影響をもたらし、特に「②伝統・郷土文化の保全」に大きな直接的影響を与えることが示された。

また、「①道の駅の普及」に影響を与える要因としては「⑥交流人口の増加」「②グリーンツーリズムの需要増加」「②情報基盤整備の促進」「⑨地域知名度の向上」などが示され、「①エコミュージアムの普及」に影響を与える主な要因として、「⑤郷土愛の育成」「⑥交流人口の増加」「⑫人材の確保及び育成」「⑫遺産への関心の高まり」「⑫グリーンツーリズムの需要増加」が示された。

この結果、エコミュージアムは主に、環境の保全、郷土愛の育成に、道の駅は産業面での振興に効果・影響があることが明らかとなった。

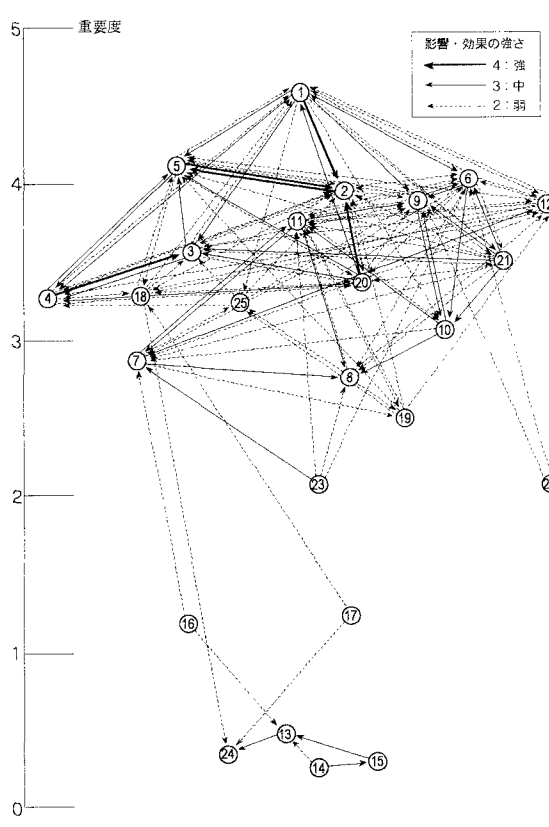


図6 エコミュージアムが地域に与える効果・影響